



本日 修了式

～1年間のご協力に感謝いたします～

春を飛び越し一気に初夏のような陽気になったかと思えば、ひんやりという日もあり、春はまだ足踏みをしているようです。

本日3月24日（月）をもって、令和6年度が終了しました。保護者の皆様のご理解とご協力に心から感謝いたします。

今日の修了式は、体育館で行いました。各種表彰では、呼名に応える元気な良い返事が体育館に響きました。その後の代表児童の発表では、自分自身をしっかりと見つめた振り返りとこれからへの抱負を力強く語ってくれました。

表彰、発表に対する拍手、全員での校歌斉唱が体育館の中に広がっていきました。先生たちの表情も和んでいて、温かいうれしいひとときでした。

修了式などの集会では、先生達がクラスの先頭ではなく横に並びます。普段はジャージ姿？の先生がスーツを着て横に並んでいる。特別な厳かな雰囲気を感じる機会、こういった機会も意図的に作って子供たちに経験させることも学校の役割だと考えています。



学校のこれから

令和3年、中央教育審議会答申で「令和の日本型学校教育」が示されました。これによれば、一人一人の子供に、学びを通して個性や強みを確実に育てること。そして、多くの友達とのコミュニケーションを通して、子供たちがそれぞれの見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的な思考をできるように学びを主体的に練り上げること。

この二つが学校に、そして全ての教員に求められています。

先日の学校だよりで、学校では次年度の計画を進めているとお伝えしました。

今後は、教職員の働き方改革を進めます。前述したように、現在、学びの在り方が大きく変わり、それに対応するための教員の研修の必要性が極めて高い状況があります。先生たちが学ぶ（研修する）時間を作る必要があります。これからの時代を生きていく子供たちに求められる力を身に付けさせるために、子供たちの学びを充実させて、よりよい教育活動を行うためには、教員の仕事をスクラップさせ空き容量を作り、余裕をもたせることで新たな試みやアイディアにつなげる必要があると考えています。

先生たちの中には、「働き方改革を進めると言うのと、先生たちが楽をしようとしていると考えられてしまうのではないか。」と心配する声もあります。「そうではありません。今までが異常だったのです。」と伝えています。朝早く学校へ来て、夜8時、9時まで仕事をする。中学校であれば、土日にも部活動の指導がある。小学校は空き時間なし、休み時間や給食は急いで食べてテストの採点、ドリルの点検、子供を見守る。気になることがあれば、お家の方へ連絡することもあり、場合によっては夜になることもある。これでは、なかなか心に余裕はできません。先生がイライラしたり怒りっぽくなったり…では子供のためにいい訳ありません。

先生たちが心と体に余裕をもって、笑顔で子供と接すること。心に余裕があれば、子供の様子を敏感にとらえる、子供の反応をおおらかに受け止めて考えることができます。

以前のような学校の在り方を考えると、こういった変革は先生たち自身もご家庭の皆さんも受け入れることが難しいことではあるでしょう。幸いなことに、本校では保護者の皆さん、地域の皆様のご理解とご協力を得ることができ、着実にこういった取り組みが進んでいます。本当にありがたく、感謝しています。

今後も、保護者の皆さんからもご意見やアイディアをお寄せください。

家庭と学校との連携をさらに深めて…

連絡帳やお電話などで、保護者の皆さんから、いろいろなお考えを聞かせていただくことは、子供たちに接するに当たってとても参考となります。本校職員からも、保護者の皆さんと情報交換をすることへの感謝の声がたくさん出ています。

学校ではしっかりものというイメージの子が家庭では案外甘えん坊だったり、お家の方からのお電話で、学校で友達関係がうまくいっていないことが分かったりと、ご家庭との情報交換は子供を理解することや声をかける際にとても役立ちます。

子供は、家庭での姿と学校での姿が違ってくるのは当たり前です。我々大人も職場と家庭での姿は違っています。保護者の皆さんはいかがでしょうか？家庭は、ほっとできる場、自分の弱さも出せる空間です。お子さんの家庭での姿と学校での姿をお互いに伝え合って、よさも気になることも共有して「この子のために、どうすることが一番良いことなのか。」を一緒に考え、同じ歩調で向き合って行きましょう。ただし、親としてできること、学校でできることには違いがあります。その違い（方法）を認め合って進めていくことが大切だと考えます。家庭と学校とが、それぞれの思いを語り合い伝え合って、認め合って、さらに連携を深めていきましょう。次年度も引き続きよろしくお願いします。



何度も振り返ってお家の方の顔を見る。

「そこで見ていて。」と、最後まで見送ってくれているのを確認していた子が、振り返る回数が減り、だんだんと振り返ることなく昇降口に入っていくようになる。

頼もしくなったことが、親としては嬉しいような、さびしいような感情になり、今度は何度もお家の方が振り返って子供の姿を確認する。

そんな親子の姿や心の機微を朝の通用門で何度も目にしました。自宅の玄関先でも同様な光景があるのではないのでしょうか。



朝のあいさつ運動の際に、「教室まで見に行ってください。」と誘うと「子供が来ないで、と言うから…」と言う方がいます。子供の成長過程では、そんな時期もありますが、それでも見に行くのは親として当たり前のこと、親としての自信を持って、そういうものだ子供に感じさせるべきではないかと考えています。

子供は成長すると、なかなか親の思い通りにならなくなってきましたが、それも当たり前のことです。話し合ってみるとお子さんの成長を感じることであります。それは、家庭教育の機会であり、親も子も成長することに繋がります。

少しずつできることが増えて、手元から離れていく子供の成長を喜び認めて、少しずつ子供に任せていくことが親としての成長ということなのかもしれません。子供の成長とともに、考え迷うこともあります。これも子育ての楽しみです。これからの子育てを楽しんでいきましょう。



一昨年の修了式の日には、校庭の桜が5分咲きほどでした。

今年は、まだつぼみが堅いようです。それでも、花壇の花が開いて、学校の周りにも春らしい明るい色合いが増えてきました。暖かな春は一気にやってくることでしょう。

4月7日（月）子供たちが「元気いっぱい 笑顔いっぱい」で学校に来るのが楽しみです。